

## 令和7年度 第2回 山形県看護師等確保推進会議 議事概要

- ◎ 日 時：令和8年3月26日（木）9：30～11：00
- ◎ 場 所：ハイブリッド開催（山形県庁1201会議室）
- ◎ 出席者：（委員）20名（総合支庁）4名 （事務局）4名

### 1 開 会

### 2 あいさつ（森野 健康福祉部医療統括監）

### 3 協 議

#### （1）令和8～9年度の「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」について

委員からの意見      ●：委員      ○：事務局

#### ●山形病院附属看護学校

##### 【看護学生のUターン率・代替職員対策について】

看護学生のUターン率が令和6年で53.3%となっているが、目標は50%以上継続としている。現状よりも目標値を低くしている理由を説明いただきたい。

また、現場では、育児休業で休んでいる看護師や育児時間等を活用し時短の看護師が増えており、職員数が慢性的に不足している状況がみられるが、こうした状況に対する県の取り組みはどうか。

#### ○医療政策課長

看護学生のUターン率について、令和6年は53.3%となっているが、令和4年より前は46.7、48.5、45.1と50%を下回っていた。令和5年度は60%を超え、令和6年度も50%を超えているが、令和8年度、9年度については、このトレンドを確固たるものとして目標値を考えたところ。

代替職員対策について、まずは看護師の総数を増やしていくこと自体が一番の処方箋になるものと考えており、離職防止や若者の定着に向けた施策を現在推進しているところ。

#### ●県立保健医療大学

##### 【看護DXについて】

看護DXの導入について、どういったことがDXとなるのか、紹介いただきたい。

## ○医療政策課長

元々県では、勤務環境改善推進事業として、1/2 補助の事業を実施してきた。勤務環境改善推進として、例えばバイタルサイン等のオンラインシステムや音声入力システムの導入についても活用可能としていたが、県の令和8年度当初予算において、事業の名称を看護 DX の推進という形に変更しDXについては、通常の勤務環境改善よりも、基準額を増額して補助額を増やすこととしたところ。

## ●山形県看護協会

### 【特定行為研修について】

特定行為の研修終了者が在宅・慢性期領域で少ない中で、看護協会においても指定研修機関となるべく、10月の開校に向けて準備を進めているところ。協力病院と受講生の確保がカギであり、県内の基幹病院等に相談して、受講生確保も含めて概ね協力するとの回答をいただいているところ。この度、県においても目標に位置づけるとともに、受講料についても支援されるということで、各病院からも、負担が軽くなりありがたいとの声も聞いている。

## (2) 令和8年度山形県看護師等確保対策事業について

### 委員からの意見

●：委員    ○：事務局

## ●山形大学

### 【看護修学資金について】

学生の確保定着について、看護職員の修学資金貸与事業の申し込み状況はどうか。

## ○医療政策課長

貸与枠は105人分となっているが、辞退者が出て、それを超える応募がある状況で100%活用されている。

## ●山形大学

予算枠の105人よりも希望者が多いという実情をどう考えているか。

## ○医療政策課長

予算全体の調整の中で、令和8年度当初予算ではなかなか増加することが困難だった。引き続き今後の活用状況も踏まえて、令和9年度以降の対応を検討していきたい。

●山形県看護協会

【看護修学資金による県内定着状況について】

貸与された方のうち、県内に就職した方の割合はどうなっているか。

○医療政策課長

令和7年10月末時点で、県内定着率は77.4%。県外に就業したり、対象外施設に就業したり、途中で退学したりするなどした方を除いたもので、平成28年から令和7年までの数字となる。

4 その他

5 閉 会